

INFORMATION AND KNOWLEDGE NEWS

情報知識学会ニューズレター
1999.9.1
54

情報知識学会事務局 発行 〒110-8560 東京都台東区台東1-5-1 凸版印刷(株)内
TEL: 03-3835-5692 FAX: 03-3837-0368 E-mail: LDE01013@nifty.ne.jp

ISSN 0915 1133

目 次

[お知らせ] 「第4回SGML/XML研修フォーラム」開催案内	1
プログラム	3
[報告] 情報知識学会・第7回(1999年度)研究会報告会	5
[お知らせ] 「サイエンス・フロンティアつくば999」開催案内	8
[報告] 平成11年度総会議事録および総会資料	10
[お知らせ] 月例研究会開催のお知らせ	16

[お知らせ]

「第4回SGML/XML研修フォーラム」開催案内

情報知識学会は標記のフォーラムを下記の通り開催します。学会員は参加費半額です。また学会員が紹介されたかたは1万円割引きで¥18,000となります。どうぞお誘い合わせのうえ、大勢ご参加ください。毎回好評で、前回は定員を超過しています。お早めにお申込ください。

[開催趣旨]

情報化が社会のあらゆる側面で一層進展する中、各種・各様の文書情報の電子化が社会的に重要な課題であるとの認識も、ますます深まっている。こうした「電子化ドキュメント」の基本的な方式としては、SGMLがすでに国際標準となっているが、昨年来、米欧を中心に、インターネットによる文書の配信等への適用性を高めたSGMLの実施規格として、XMLが提案され、その急速な普及が期待される状況になっている。

こうした情勢を踏まえ、情報知識学会では、電子化ドキュメントに対する啓発活動として、SGML/XML研修フォーラムをすでに3回開催してきた。第4回のフォーラムにおいては、XMLの具体的応用可能性について、XSL、XQL、RDF、DOM等を含めて、さらに理解を深めることを目的とし、とくに政府、自治体等、公共的場面での動向と、民間企業での適用事例および対応製品の現況を総覧し、電子化ドキュメントに関わる諸氏に、有益な学習機会を提供し、また参加者間での意見交換を通じて、今後の方向性に対する認識を深めるものとする。

1. 期 日 : 平成11年10月19日(火)～20日(水) 9:30～16:30
2. 定 員 : 100名(予約制・先着順)。
3. 会 場 : グランドヒル市ヶ谷(新館)2階 白樺の間(100名収容)

東京都新宿区市谷本村町4番1号（市ヶ谷駅より徒歩3分）

4. 対象者 : SGML/XMLに関心をもつすべての方々。地方自治体および企業等でSGML/XML関連事業の受発注にかかわり、またはSGML/XMLを適用したデータベースに携わるなど、初心者から中級者まで。
5. 内 容 : XMLの動向、製品紹介、行政における施策と適用の現状と展望、各業界・企業の具体的実施例など。プログラム詳細は別途。
6. 参加費 : 一般¥28,000。当日入会者¥22,000。
地方自治体、協賛団体会員¥18,000。
リピーターおよびその所属団体¥18,000。
学会員¥14,000。学生は無料（予稿集のみ¥2,000）。
7. 申 込 : 参加者氏名、郵便番号、住所、電話・FAX番号、資格別参加費金額、請求書要不要を電子メール、FAX、郵便のいずれかで下記事務局へ申し込む。
- 〒110-8560
東京都台東区台東 1-5 凸版印刷(株)内 情報知識学会事務局
FAX: 03-3837-0368 E-mail: LDE01013@nifty.ne.jp
8. 入場証 : 事務局から申込受付済みの連絡を受けた参加申込者は、郵便局にて口座番号〔00130-9-706558〕、加入者名〔情報知識学会〕へ規定の参加費を振り込む。その受領書の実物またはコピーを当日の会場受付係りへ渡し、入場する。当日までに振り込めないかたは、事前に事務局へ要相談。
9. 協賛団体 : (五十音順、含む交渉中)
- ・(社) 行政情報システム研究所
 - ・(社) 情報科学技術協会
 - ・(社) 電子情報通信学会
 - ・(社) 日本印刷技術協会
 - ・(財) 日本学会事務センター
 - ・日本出版学会
 - ・日本データベース協会
 - ・日本電子出版協会
 - ・(社) 日本図書館協会

[実行委員会]

- | | | |
|-------|-------|-------------------------------|
| ・委員長 | 根岸 正光 | 文部省学術情報センター教授 |
| ・副委員長 | 細野 公男 | 慶應義塾大学教授 |
| ・副委員長 | 石塚 英弘 | 図書館情報大学教授 |
| ・委員 | 岩淵 幸雄 | 情報知識学会理事 |
| ・ // | 菊田 昌弘 | (株) シナジー・インキュベート代表取締役 |
| ・ // | 高橋 仁一 | 大日本印刷 (株) C&I 技術開発センター第3 開発室長 |
| ・ // | 深見 拓史 | 凸版印刷株 (株) 技術企画部長 |

情報知識学会主催「第4回SGML/XML研修フォーラム」プログラム

会場：グランドヒル市ヶ谷 TEL:03-3268-0111

<第1日> 1999.10.19 (火)

9:00～ {受付開始}

9:30～ 9:35 [開会挨拶] 実行委員長／学術情報センター教授／根岸正光

9:35～10:25 講演 [1] 知識・知恵の時代の到来とXML
(株) 大塚商会／岡部恵造

10:30～11:10 講演 [2] 電子公文書のSGML化の現状
総務庁行政管理局／千葉富久男

11:15～11:55 講演 [3] XMLを利用した国際農学電子図書館の試み
農水省つくば事務所／鴻巣勝美

12:00～13:10 {昼食 70 分}

13:10～13:50 講演 [4] 建設事業におけるSGML/XMLの利用
建設省土木研究所／光橋尚司

13:55～14:35 講演 [5] 情報公開対応の自治体ドキュメント・システムを考える
(株) ドキュメント・エンジニアリング研究所／西村 健

14:40～14:55 {休憩 15 分}

14:55～15:35 講演 [6] SGMLの実装
(株) クレステック／秋山尚之

15:40～16:20 講演〔7〕 XML技術を利用した電子帳票製品の実際
 ジェットフォーム・ジャパン(株)／佐々木徹

16:30 終了

<第2日> 1999.10.20(水)

9:00～ {受付開始}

9:30～10:10 講演〔1〕 SGMLによる銀行マニュアルの効果的な制作と配布
 凸版印刷(株)／菊池 隆史

10:15～10:55 講演〔2〕 SGML化した税研データベースの公開について
 (株)税務研究会／奥田 守

11:00～11:40 講演〔3〕 XMLによる製品情報の電子化
 アバー・テキスト社／Tom Dicorcia

11:40～12:40 {昼食 60分}

12:40～13:20 講演〔4〕 An Automatic XML-based Image Capturing System
 ダイナラブ・ジャパン(株)／Fisher Lee

13:25～14:05 講演〔5〕 XMLによる情報のアーカイビング
 インフォ・シャワー・ジャパン(株)／久堀 博

14:10～14:50 講演〔6〕 XMLを使った電子出版交換フォーマット「JEPAX」
 (株)イースト／渋谷 誠

14:50～15:05 {休憩 15分}

15:05～15:45 講演〔7〕 XMLとインターネット・プラットフォーム
 日本オラクル(株)／鈴木 俊宏

15:50～16:30 講演〔8〕 XMLによる情報共有改革
 NTTコミュニケーションウェア(株)／丸山 則夫

16:30～16:35 閉会挨拶

16:35 終了

以 上

[報 告]

情報知識学会・第7回（1999年度）研究会報告会

研究会組織委員長 細野公男（慶應義塾大学）

平成11年度研究会は、例年と同じ形式つまり特別講演と一般講演の2つで行われた。インターネットの急速な普及は、情報知識学会を取り巻く環境に大きな影響を及ぼしている。その一例が、情報検索、情報・知識処理、デジタル情報処理分野での新たな研究領域の出現であり、情報知識学における理論の整備であろう。こうした傾向が今回の研究会での講演にも表れている。

今回の特別講演は、「デジタル・コンテンツ・サービスの動向と情報学」の演題で、学術情報センターの根岸正光教授にお願いした。この講演は極めて今日的なテーマを分析的に紹介しただけでなく、今後当学会が歩むべき道に關しての課題も示したものである。

また、一般講演は、下記のテーマを対象に、公募によって募集した。

- (1) 情報知識の構造解析、モデル化、意味理解、自己組織化、可視化
- (2) 情報・知識の表現、生産、組織化、検索、提供
- (3) 電子出版、電子図書館、フルテキスト・データベース
- (4) マルチメディア、電子ミュージアム
- (5) 用語、シソーラス、電子化辞書、機械翻訳
- (6) 専門分野における情報管理、レコード・マネージメント
- (7) その他情報知識学、図書館・情報学に關連する諸研究・開発

プログラムは、内容に応じて次の5つのセッションから構成した。

- | | |
|---------------|----|
| 1. 情報検索 | 3件 |
| 2. 情報知識学 | 3件 |
| 3. デジタル・コンテンツ | 3件 |
| 4. 用語、データベース | 3件 |
| 5. 情報・知識処理 | 4件 |

当初は応募数が少なかったため、理事の方々のご協力をいただいで積極的に講演者を募集した結果、一般講演件数は16件にも達し、きわめて成功裏に研究会を終了することができた。すべての発表および会場からの質問や意見は、レベルが高く示唆に富んだものであり、有益な報告会であったといえよう。今回の研究会の反省点としては、16件の講演を1会場で行ったため、発表・質問時間に制限を加えざるを得ず、講演者や質問者が自分の考えを開陳する機会が十分なかった可能性があることである。しかし、1会場で行ったからこそ盛り上がったともいえるので、進行の仕方については今後の検討課題として残しておきたい。

最後に例年会場を提供していただき、また研究会運営についての便宜を図っていただいた凸版印刷株式会社の関係者および事務局の方々に、この場を借りてお礼申し上げたい。

セッション1：情報検索

座長：後藤智範（神奈川大学）

本セッションでは、情報検索に関する下記の3件の研究が報告された。

- (1) 文献の非主題的特徴と情報検索におけるその意義
- (2) 情報検索行動における検索の終了
- (3) テキストマイニングを用いた文書検索システム

従来、情報検索の研究は当該テキストの主題にのみ焦点が置かれていたが、近年、非主題的特性についても注目されるように生じた。(1)では主題特性と非主題特性のを比較し、特に後者について、文献の具体的表現にまで言及し、さらにより実証的な研究へに向けてその方法にふれていることが大変興味深い。(2)は昨年度に引き続く研究であり、情報探索行動からのアプローチで、情報検索が何により終了されるかと言う、従来当該分野であまり着目されていないテーマで興味深いものであった。(3)は、近年、DBMSで広がってきたデータマイニングの文献データベースへの応用研究で、大規模なデータに対象としたものであり、結果の応用が期待される。

特別講演：「デジタル・コンテンツ・サービスの動向と情報学」根岸正光（学術情報センター）

座長：細野公男（慶應義塾大学）

インターネットは我々の情報活動に大きな影響を及ぼしているため、それを取り巻く環境がどのように変化しつつあるかは、我々にとって大きな関心事となっている。本講演は、「商用メディアとしてのインターネット」、「ネットワークとコンテンツの融合」、「電子図書館、オンライン・ジャーナル」、「料金徴収システムと著作権保全技術」、「MP3の衝撃と自家発行の文化」、「学術情報流通の動向」、「情報学の課題」から構成され、インターネットの普及がもたらした今日的な現象を、分析的に紹介している。その内容は、以下のように要約することができる。

インターネットを単なる通信網ではなく情報源や広告媒体、さらにはビジネスのツールとして捉える見方が広がっているが、その顕著な例として世界経済戦略の重要な武器と考える米国の動きがあげられる。こうした動きをもたらした要因の一つとして、America Onlineに代表されるようなVAN、データベース・サービス、パソコン通信、インターネットを統合したサービスがあり、ニフティやMicrosoftも同様なサービスを展開している。

また、電子図書館サービスやオンライン・ジャーナルで代表されるデジタル・コンテンツの興隆も、インターネットの発展と無縁ではない。わが国でも学術情報センター、科学技術振興事業団などで種々の試みがなされているが、料金徴収技術や著作権保全技術に関して新たな側面が生じている。その結果、従来の料金徴収の方法や著作権の概念が著しく変化しつつある。情報技術の進歩は、情報の生産・流通・提供体制にも大きな影響を及ぼしており、新たなサービス形態・方針が出現している。その一例がMP3であり、こうした傾向は学会での出版活動にも見られる。

このようにインターネットでのデジタル・コンテンツに関わる問題は、多岐にわたっており、情報学の範疇で検討すべき課題は多い。本講演では、こうした課題に取り組む視点として、人間の種々の情報行動を、情報・通信技術やその環境を形成する社会・経済・法律などのもとで分析・考察することが、提唱されている。

セッション2：情報知識学

座長：平田 周（IT経営研究所）

「情報知識学」というテーマほど、当学会にとって基本的かつ重要な問題はない。しかし、それが容易に取り組めるテーマでないことも事実である。いきなり本質に迫るよりも多くの個々の具体的問題を解明し、次第に中核に迫っていくというアプローチを取るほかないともいえる。今回発表された3つの研究報告は、本題からはいさかか遠いものもあったが、こうした蓄積が積み重なっていつか実ってくるものと思われる。報告なされたなかでは、村上茂三氏の「情報知識学思案一起草・承章」は、直接本題に挑戦する意欲的なものだとして評価された。ただ思案と題されているから私的考察であるのは当然であるが、いさかか思考の過程での断片的論が多く、わかりにくさは否めなかった。逆説的にいえば、そこに本題を扱うことの難しさをみることができるといふことにもなるが、「本質的論議を盛んにする」ことの必要性を論者が強調しているが、これを一つ契機として、当学会で「情報知識学」の本質についての研究が主流となる日を期待したい。

セッション4：用語、データベース

座長：田村貴代子（市川房枝記念会）

本セッションでは、データベースおよびその基となる用語に関する3件の研究報告が行われた。

齊藤友明他「JAVA言語を用いたガラス材料データベースの構築」は、WWWの技術やJAVAの技術を用いて、データベースを構築したが、これは1つの検索プログラムでインターネット経由の検索サービスとCD-ROM検索サービスが提供できる手法である。特に、開発期間の短縮と指摘されているJAVAの実行速度の遅さもある程度の速度を得ることができたことを検証している。

長谷川功他「地質調査所の数値地質図の構造と利用」では、地質図の数値データベースから自由にビジュアル化したデータを画面上に表現し、地球内外で発生する自然現象を可視化する研究報告である。発生過程および影響などを予測・予知する興味深いものであったが、省庁の統合等で研究の継続は危ぶまれている。現在CD-ROMの出版を計画しているとのことであった。

辻宏子「美術用語のシソーラス：複合名詞を中心に」は、美術雑誌において使われている美術専門用語に着目し用語の性格を分析している。用語は漢語、カタカナ語、混成語、和語、アルファベットに分類でき、かつ、複合語が多くその構成要素の主体は漢語の割合が高い。主に漢語語彙とカタカナ語語彙から新しい語彙を生産し表現しているが、語彙の発生・機能、複合語の構造等の在り方を考察している。

セッション5：情報・知識処理

座長：細野公男（慶應義塾大学）

本セッションでは、情報・知識処理に関わる4件の研究成果が、種々の観点から報告された。最初の発表は、Webページの重要度を決定する因子として、何が妥当かを分析したものである。WWWでの検索は従来の情報検索とは検索環境が異なることを示し、その違いを踏まえた視点から、重要度因子の種類（検索語との適合度、ページ更新日時、参照履歴、リンク構造、ページタイプ）、およびその利点と問題点、さらに重要度因子間の関係を明らかにしている。

2 番目の発表は、金属材料分野における研究論文の意味構造を記述するための枠組みを提案したものである。具体的には、複数の文にまたがる意味構造の詳細な記述と、内容上の差違・矛盾を抽出するための推論機構の提案である。前者に関しては、生成語彙を用いた意味構造の表現、後者では、論文間の差違を抽出するためのルールとその操作機構が示されている。

3 番目の発表は、概念間の階層構造および非階層構造を、3 時限仮想空間で表現するための表示モデルの提案、その有効性の評価、問題点の提示を行ったものである。有効性の評価と問題点の検証を実証的に行うため、実験データとして INSPEC シソーラス、EDR 電子化辞書を使用している。

最後の発表は、用語間の意味関係の抽出、用語による構造化知識の構築、意味理解と学習・思考機構の解明をめざす試みを報告したものである。意味関係としては因果関係を取り上げ、NACSIS テストコレクションの情報科学分野の論文標題とその要旨を対象に、関連関係の抽出を行っている。

([注] セッション 3 : デジタルコンテンツは座長報告未着のため、割愛しました。)

.....

[お知らせ]

「サイエンス・フロンティアつくば 999」開催案内

本年 6 月にオープンした「つくば国際会議場」の開館記念自主事業として、「サイエンス・フロンティア 999」(略称 SFT999) が今秋 11 月に開催されます。江崎玲於奈氏をゼネラル・チェアとする SFT999 は、「科学と技術の限界に挑む」を主テーマに、ノーベル賞受賞者を含む約 70 名の招待講演者と国内外の研究者が一堂に会して 21 世紀の科学・技術研究について討議する横断的な研究交流の場を目指すものです。

■主催： つくば国際会議場自主事業組織委員会

■日時： 1999 年 11 月 17 日 (水) ～19 日 (金)

■公用語： 日本語、英語 (同時通訳あり)

■登録料： 一般 20,000 円、学生 6,000 円 (9 月末までの早期登録料金)

■6 部会の構成 (部会長)：

- | | |
|-----------------|-----------------------|
| ○構造生物学部会 (西村暹) | 「分子の構造から生命現象の本質にせまる」 |
| ○脳科学部会 (伊藤正男) | 「成長し発達する脳」 |
| ○農業科学部会 (貝沼圭二) | 「植物ゲノム研究 — 新世紀への挑戦」 |
| ○物質科学部会 (丸山瑛一) | 「ナノ構造と物質科学のブレークスルー」 |
| ○地球科学部会 (石田瑞穂) | 「自然と人間の共存に地球科学の果たす役割」 |
| ○情報通信科学部会 (諏訪基) | 「情報技術が支える新世紀の科学」 |

■プログラムの主要構成とプレナリー・スピーカー：

第一日：

各部会を代表する基調講演者による「オープニング・プレナリー」と、6人が登壇する「パネル・ディスカッション」

- ハートムート・ミヘル／マックスプランク生物物理学研究所長（1988年ノーベル化学賞受賞）
「分子生科学の将来：大量且つ平行したアプローチの帰結」
- 利根川進／マサチューセッツ工科大学教授（1987年ノーベル生理学賞受賞）
「21世紀の脳科学：心の生物学に向けて」
- グルデブ・S・クッシュ／国際稲研究所稲育種部長（1987年日本国際賞受賞）
「21世紀における食料安定生産のためのゲノム研究と育種戦略」
- スティーブン・チュウ／スタンフォード大学教授（1997年ノーベル物理学賞受賞）
「レーザーによる原子と生命分子の捕獲」
- 金森博雄／カリフォルニア工科大学地震研究所教授（1993年朝日賞受賞）
「大都市の地震防災のための科学と技術の連携」
- マービン・ミンスキー／マサチューセッツ工科大学教授（1990年日本国際賞受賞）
「常識をもった機械を目指して」

第二日：

- 約50の招待講演による「部会セッション」（6部会パラレル）
- テーマをつくばに絞った全体会議「つくばセッション」
パネリスト／生駒俊明、梶村皓二、黒川眞一、黒田玲子、立花隆、松本元
コーディネータ／餌取章男

第三日：

- 部会長による「クロージング・プレナリー」

■問合せ先

サイエンス・フロンティアつくば999事務局

<http://www.sft.gr.jp>

(株)アイシーエス企画内

〒102-8646 東京都千代田区平河町2-7-4 砂防会館別館

TEL: 03-3263-6153 FAX: 03-3263-7318 email: sft999@ics-inc.co.jp

情報知識学会／平成11年度総会議事録

1. 名 称 情報知識学会 平成11年度総会
2. 開催日 平成11年5月22日(土) 17:30~18:00
3. 会 場 東京都千代田区神田和泉町1番地
凸版印刷株式会社 本社ビル1階ホール
4. 議 長 藤原鎮男会長
5. 議 事
(1) 開 会・開会宣言：藤原讓副会長
・開会挨拶：藤原鎮男会長
・総会有効成立確認：事務局長
総会出欠票兼委任状 120枚の提出を受け、定足数(会員の10%)
を満たし、総会成立。
(2) 報告事項・平成10年度事業報告：藤原讓副会長
(3) 承認事項・平成10年度収支決算報告：細野副会長
原案の「事務局機構拡充積立金」を収入・支出の部から除き、
貸借対照表内に記載することとした。★
・監査報告：月見里監事
・平成11年度事業計画説明：藤原讓副会長
・平成11年度収支予算説明：細野副会長
原案の「事務局機構拡充積立金」を収入・支出の部から除く。★
・定款第33条1項改定の件：藤原鎮男会長
・役員改選の件：藤原鎮男会長
前年度役員が全員留任し、菊田昌弘氏が新任され、計31名。★

上記★印の修正を加え、報告および提案は原案通り承認された。詳細は後掲資料参照。

以上

平成 1 1 年度総会資料（修正済み）

1. 会員数

	H 10.3.31現在	H 10.4.1 ～ H 11.3.31		H 11.3.31現在
		入 会	退 会	
正会員	3 0 7 人	2 4	2 4	3 0 7 人
学生会員	1 4 人	2	6	1 0 人
賛助会員 ()は口数	2 1 法人 (66)	3 (9)	5 (16)	1 9 法人 (59)
合 計	3 4 2	2 9	3 5	3 3 6

2. 平成10年度事業報告

①会議

・平成10年 5月 7日	17:30～20:00	理事会	於：凸版印刷㈱
・平成10年 5月23日	16:30～17:00	総会	於：凸版印刷㈱
・平成10年 8月27日	17:30～20:00	理事会	於：凸版印刷㈱
・平成10年11月26日	17:30～20:00	理事会	於：凸版印刷㈱
・平成11年 3月18日	17:30～20:00	理事会	於：凸版印刷㈱

②講演会・セミナー・シンポジウム等

- ・「情報知識学会・第6回（1998年度）研究報告会」主催 於：凸版印刷㈱
平成10年5月23日
- ・「Computer Visualization Symposium '98」後援 於：お茶の水女子大学
平成10年10月3日 （日経サイエンス社主催）
- ・「第3回SGML/XML研修フォーラム」主催 於：グランドヒル市ヶ谷
平成10年10月28～29日
- ・「文字シンポジウム」専門用語研究会と共催 於：日本学術会議講堂
平成10年11月6日
- ・「第10回歴史研究と電算機利用ワークショップ」主催 於：駿台電子情報専門学校
平成10年12月5日
- ・「'99 情報学シンポジウム」 日本学術会議と共同主催 於：日本学術会議講堂
平成11年1月13日～14日 本学会から細野副会長が実行委員として協力
- ・「WDCM国際シンポジウム」後援 於：九段会館（東京都千代田区）
平成11年2月16日 （国立遺伝学研究所生命情報研究センター主催）

③刊行物

・ニューズレター 49号	平成10年 4月 1日発行
・第6回（1998年度）研究報告会講演論文集	平成10年 5月23日刊行
・ニューズレター 50号	平成10年 6月 1日発行
・情報知識学会誌第8巻第1号	平成10年 9月28日刊行
・情報知識学会誌第8巻第2号（SGML特別号）	平成10年10月28日刊行
・ニューズレター 51号	平成10年12月 1日発行
・ニューズレター 52号	平成11年 2月 1日発行

3. 平成10年度('98.4.1～'99.3.31) 予算書

(単位：円)

収入の部		支出の部		
収入科目	収入金額	部 門	使用科目	使用金額
前年度繰越金	397,088	ニューズレター 編集部門	印刷代・送料	580,000
会費収入（個人）	1,800,000		編集経費等	20,000
会費収入（法人）	1,800,000	学会誌編集部門	印刷代・送料	900,000
利息	1,000		編集経費	100,000
学会誌・別刷代	50,000		原稿料	0
懇親会参加料	0	企画部門	セミナー備品等	690,000
講演論文集代	100,000		講師謝礼等	1,000,000
事業収入	2,300,000	研究報告会	講演論文集印刷代	250,000
雑収入	51,912		懇親会経費	0
		総務部門	入会案内作製費	100,000
			理事会実施費用	100,000
		事務局・その他	事務用品代	50,000
			通信費・送料	200,000
			印刷代（封筒等）	100,000
			振込手数料	10,000
			総会実施経費	20,000
			業務委託費	1,800,000
			交通費その他	380,000
		予備費		200,000
合計	6,500,000	合計	6,500,000	

* 会費収入は平成10年3月31日現在の会員数より算定

4. 平成10年度('98.4.1～'99.3.31) 決算書

(単位：円)

収入の部		支出の部		
収入科目	収入金額	部 門	使用科目	使用金額
前年度繰越金	397,088	ニューズレター 編集部門	印刷代・送料	705,577
会費収入（個人）	2,574,519		編集経費等	4,410
会費収入（法人）	1,620,000	学会誌編集部門	印刷代・送料	1,057,979
利息	564		編集経費	0
学会誌・別刷代	50,000		原稿料	0
懇親会参加料	0	企画部門	セミナー備品等	348,117
講演論文集代	84,300		講師謝礼等	145,000
事業収入	1,657,810	研究報告会	講演論文集印刷代	216,300
雑収入	110,188		懇親会経費	0
		総務部門	入会案内作製費	0
			理事会実施費用	85,340
		事務局・その他	事務用品代	53,132
			通信費・送料	64,885
			印刷代（封筒等）	72,975
			振込手数料	4,095
			総会実施経費	20,000
			業務委託費	1,800,000
			交通費その他	423,270
		次年度繰越金		1,493,389
合計	6,494,469	合計	6,494,469	

5. 貸借対照表

平成11年3月31日現在（単位：円）

科 目	借 方	貸 方	備 考
1. 資産の部			
現金	0		
普通預金（三和銀行）	535,550		
郵便振替口座	2,429,270		情報知識学会名義
郵便振替口座	28,569		コデータ部会名義
定額郵便貯金	500,000		
2. 負債の部			
未払費用		0	
3. 特別会計			
事務局機構拡充積立金		2,000,000	当期から特別会計扱
4. 正味財産		1,493,389	
（内当期正味財産増加額）		(1,244,351)	
合 計	3,493,389	3,493,389	

監査報告書

情報知識学会

会長 藤原 鎮男 殿

作成日 平成11年5月13日

情報知識学会 監事 穴戸駿太郎 

情報知識学会 監事 月見里禮次郎 

当監事は、情報知識学会定款第19条に基づく監査証明を行なうため、情報知識学会の平成10年4月1日から平成11年3月31日までの財務諸表について監査を行ないました。この監査に当たって、当監事は一般に公正妥当と認められる監査基準に準拠し、通常実施すべき監査手続きを実施致しました。

監査の結果、当監事は上記財務諸表が平成11年3月31日現在の情報知識学会の財務状況を適正に表示しているものと認めます。

6. 平成11年度事業計画

- ①会議
- ・総会 平成11年5月22日開催
 - ・理事会 年4回開催
- ②講演会・シンポジウム
- ・第7回(1999年度)研究報告会開催(5月22日)
 - ・第4回SGML/XML研修フォーラム(10月18日～20日)
 - ・第5回著作権シンポジウム(今秋)
 - ・その他
- ③研究部会
- ・知的財産権、電子管理システム、CODATA、人文・社会科学系、歴電ワークショップ、ビジュアライゼーション。
- ④刊行物
- ・ニューズレター 第53号～55号発行予定
 - ・学会誌 第9巻第1～4号刊行予定
 - ・第7回(1999年度)研究報告会講演論文集刊行
 - ・その他(研究会報告、テキストなど)
- ⑤広報活動
(会員拡充)
- ・入会案内作製
 - ・ホームページ活性化

7. 平成11年度(1999.4.1～2000.3.31) 予算書

(単位: 円)

収入の部		支出の部		
収入科目	収入金額	部 門	使用科目	使用金額
前年度繰越金	1,493,389	ニューズレター 編集部門	印刷代・送料	600,000
会費収入（個人）	1,800,000		編集経費等	10,000
会費収入（法人）	1,800,000	学会誌編集部門	印刷代・送料	1,500,000
利息	1,000		編集経費	20,000
学会誌・別刷代	50,000		原稿料	0
懇親会参加料	0	企画部門	セミナー備品等	440,000
講演論文集代	100,000		講師謝礼等	500,000
事業収入	1,700,000	研究報告会	講演論文集印刷代	250,000
雑収入	55,611		懇親会経費	0
		総務部門	入会案内作製費	100,000
			理事会実施費用	100,000
		事務局・その他	事務用品代	50,000
			通信費・送料	100,000
			印刷代（封筒等）	100,000
			振込手数料	10,000
			総会実施経費	20,000
			業務委託費	1,800,000
			交通費その他	500,000
		事務局機構拡充積立金増額		
予備費			500,000	
合計	7,000,000	合計	7,000,000	

*会費収入は平成11年3月31日現在の会員数より算定

8. 定款の一部改定

〔第33条1項〕 理事会は理事現在数の3分の2以上出席しなければ議事を開き、議決することができない。ただし、当該議決につき書面をもって、あらかじめ意思を表示したものは、出席者とみなす。

<案>上記下線部分の3分の2以上を「2分の1以上」に改定。

9. 役員人事

会長	藤原 鎮男	東京大学 名誉教授
副会長	藤原 譲	神奈川大学 教授
	細野 公男	慶応義塾大学 教授
	根岸 正光	学術情報センター 教授
理事（五十音順）	浅田 雄司	金属材料技術研究所
	芦沢 実	(株)日立製作所 主任研究員
	有川 節夫	九州大学 教授
	石塚 英弘	図書館情報大学 教授
	岩淵 幸雄	日本創造学会 理事
	菊田 昌弘	(株)ソニー・インキュベート 代表取締役
	国沢 隆	東京理科大学 講師
	後藤 智範	神奈川大学 教授
	高橋 仁一	大日本印刷(株) 開発室長
	小山 照夫	学術情報センター 教授
	菅原 秀明	国立遺伝学研究所 教授
	田隅 三生	埼玉大学 教授
	田畑 孝一	図書館情報大学 教授
	田村 喜代子	市川房枝記念会
	次田 皓	東京理科大学 教授
	中川 優	和歌山大学 教授
	長瀬 真理	静岡大学 教授
	永村 真	日本女子大学 教授
	名和 小太郎	関西大学 教授
	西脇 二一	奈良大学 教授
	平田 周	IT経営研究所 所長
	深見 拓史	凸版印刷(株) 技術企画部長
	松田 芳郎	東京国際大学 教授
	安永 尚志	国文学研究資料館 教授
	山本 昌弘	法政大学 教授
監事	宍戸 駿太郎	(財)環日本海経済研究所 研究顧問
	月見里 禮次郎	えんがわ 代表

以 上

[お知らせ]

月例研究会開催のお知らせ

このたび情報関連の問題に詳しい方々を講師に招いて、月例研究会を開催することになりました。ぜひご参加下さい。研究会は、毎月第4火曜日（祭日の場合は翌日）に開催します。時間は午後6時半から8時半までと致します。場所は JR 浜松町駅にある世界貿易センタービル38階の「世界貿易センタークラブ」です。足の便がたいへんよろしいので、ぜひお気軽にお立ち寄り下さい。出席の予約は不要です。会費はとりあえずお一人2千円とさせていただきます。テーマ、講師などの開催案内は、Eメールのアドレスをお持ちの方々には、当会メーリングリストでその都度ご案内させていただくほか、当会ホームページにも掲載する考えです。まだメーリングリストに登録されていない方、あるいはアドレスを変更された方は、お手数でも事務局まで連絡しておいて下さい。

第1回は10月26日、講師はまだ交渉中ですが、Julian Warner 著「本とコンピュータを結ぶ」（勁草書房 1999）を訳出された慶応義塾大学文学部高山正也教授か共同訳出者の方をお願いする予定です。

担当 平田 周

連絡先 LDG01371@nifty.ne.jp

TEL 03-3456-6282

■編集後記

今年も厳しい暑さが続きましたが、ようやく筑波では夜になると虫の声など秋の気配を感じるようになりました。ニューズレターの第54号をお届けします。

ノストラダムスの予言解釈の中でも有名な1999年7月も、昔騒がれたようなことは起こらず、世間の興味はむしろ「コンピュータ2000年問題（Y2K）」に移っていると思われます。日本時間の8月22日午前9時はこのY2Kの前哨戦とも言われるGPS（Global Positioning System）の問題があったのですが、日本ではカーナビゲーションシステム（カーナビ）の問題に焦点があてられて報道されていたようです。

このGPSの問題はシステム稼働開始から何週目かを数えるのに10ビットしかなく、これがオーバーフローして0に戻ったというものです。GPSはカーナビだけではなく、本来の用途である米軍の装備を始めとしてさまざまなところで利用されています。インターネットでは時刻を正確に合わせるためにNTP（Network Time Protocol）というものが用いられていますが、これの大元の標準時計として、GPS受信器を使っているものも数多くあります。今のところそれらの時刻が狂ったというような話は耳にしていますが、学会会員のみなさんのところではいかがでしょうか。

Y2Kに関しては多くの場合、「コンピュータが止まる」というような明確に動かなくなることで世間ではとらえられているように思われます。しかしながら本当に怖いのは、一見正常に動いているように見えるけど実はY2Kによって狂いが生じているというような場合だと思います。私の所属している大学では卒業論文の提出が1月末なので、Y2Kで卒業ができなかったということがないように、今から4年生には雑談の合間など注意を促すようにしています。「大山鳴動して鼠一匹」という程度であれば良いと願うばかりです。

ニューズレター編集委員 阪口 哲男

■複写をされる方に

R <学協会著作権協議会委託>

日本国内における、当ニューズレターからの複写許諾は、学協会著作権協議会から得てください。

学協会著作権協議会

〒107 東京都港区赤坂9-6-41

TEL: 03-3474-4621, FAX: 03-3403-1738

アメリカ合衆国における複写については、Copyright Clearance Center, Inc. から得てください。

Copyright Clearance Center, Inc.

222 Rosewood Drive, Danvers, MA. 01923, USA

TEL: 508-750-8400, FAX: 508-750-4744